

数字で見る 姫路経済 2026



姫路商工会議所
姫路経済研究所

目 次

1. 姫路市の歴史	3
2. 姫路市の概要	4～5
3. 人口	
(1) 世帯数、総人口等の推移及び編入・合併等の変遷	6～7
(2) 年齢階層別人口推移	8～9
(3) 世帯類型別推移	10
(4) 転出入の状況について	11
4. 産業	
(1) 産業構造	12～14
(2) 製造業	15～17
(3) 卸売業	18～20
(4) 小売業	21～23
(5) その他関連指標	24～25
5. 姫路市内景気動向	26～27

1. 姫路市の歴史

姫路市は、兵庫県の南西部に広がる播磨平野の中央部に位置し、神戸市まで約50km、岡山市まで約70kmの距離にあり、京阪神、中国、山陰を結ぶ交通の要衝となっている。

1889年4月に江戸時代の城下町とその外縁部（面積約3km²）を市域とする人口約25,000人の都市として、全国30市とともに我が国初の市制を施行したところから始まる。

大正時代には、姫路駅周辺は一大ターミナルとして商業施設が集積するとともに、旧制高校のうちの1校である旧制姫路高等学校が1924年に開校し、文教府としての側面を持つようになった。

工業化の面では、明治後期から昭和にかけ紡績業等の軽工業が発展するとともに、大正から昭和にかけて臨海部に製鉄業等の重工業が進出し、人口の集積に伴い市街地が拡大した。

太平洋戦争では2回の空襲により市街地は壊滅的な打撃を受けたが、戦後復興を早期に果たすべく市のシンボルロードである大手前通りの整備や市街地の改造に取り組み、姫路駅周辺の復興が図られた。

高度経済成長期には、播磨臨海工業地帯の中心としての役割を担い、商工業都市として今日の姿へと発展を遂げてきた。

1993年に姫路城が法隆寺とともに日本で初めて世界文化遺産に登録された。

本市は、1889年の姫路市制施行から1967年にかけて計11回に及ぶ市町村合併により市域を拡大してきた。2006年には近隣4町（家島町、夢前町、香寺町、安富町）と合併し人口53万人の新生「姫路市」が誕生した。

現在、産業面では、「ものづくり産業」の厚い集積がある特性を備え、臨海部には鉄鋼、化学などの大企業やそれらを支える技術力のある中小企業が集積し、全国有数の工業地帯を形成している。また、市内に姫路工業大学を前身とする兵庫県立大学工学部や全国初の「公私協力方式」で設立された姫路獨協大学などがあり、産官学が連携して、研究協力や学術交流を行っている。

2015年3月には、平成の大修理を終えた姫路城がグランドオープンし、初年度は286万人の入城者数を記録した。

2015年度より、本市は「播磨圏域連携中枢都市圏（8市8町）」における連携中枢都市となり、播磨地域の持続的な経済成長の牽引役を期待されている。

姫路駅を中心とする開発について、北駅前広場を含むエントランスゾーンは、2015年4月に完成し、その東に隣接するコアゾーンについても、ホテル、シネマコンプレックス、専門学校等が開設された。さらに、コアゾーンの東に位置するイベントゾーンでは、2021年9月の姫路市文化コンベンションセンター「アクリエひめじ」の開業に次いで、2022年5月に「兵庫県立はりま姫路総合医療センター（はり姫）」が開院した。これにより、鉄道の高架化を図る連続立体交差事業、土地区画整理事業、街路事業と都市拠点施設の整備を総合的に行う「キャスト21計画」における主要な施設の整備が完了した。

今後、周辺部でも手柄山中央公園内における大規模スポーツ施設「大和工業アリーナ姫路（ひめじスーパーアリーナ）」の整備が進められており、2026年10月の開業が予定されている。また、その新たな玄関口となるJR山陽本線姫路駅～英賀保駅間の新駅「JR手柄山平和公園駅」は2026年8月1日に開業した。これにより、高次都市機能を集積させた播磨圏域の中核市としてふさわしい都市空間整備が着実に進んでいる。



世界文化遺産・国宝 姫路城

- 市名のいわれ
播磨国風土記「日女道丘」（ひめじおか）に由来します。
- 市木 カシの木
- 市鳥 しらさぎ
- 市花 さざ草
- 市蝶 ジャコウアゲハ

（資料：姫路市「ひめじ創生戦略」、「姫路フォトバンク」）



2. 姫路市の概要

面	積	534.35km ²	(2024年10月1日現在)
人	口	516,285人 男 249,957人 女 266,328人	(姫路市の推計人口・2026年8月1日現在)
世	帯	数	232,103世帯 (姫路市の推計人口・2026年8月1日現在)
人	口	増 減	【自然増減数】 ▲3,317人 (出生) 3,351人 (死亡) 6,668人 (姫路市主要統計指標 令和7(2026年)) 【社会増減数】 358人 (転入) 16,125人 (転出) 15,767人 (姫路市主要統計指標 令和7(2026年))
産	業	【事業所数】 22,217事業所 (民営) (製造業) 861事業所 (従業者4名以上) 【製造品出荷額等】 1兆9,911億円 (令和3年経済センサス-活動調査) (卸売業) 1,249事業所 【年間商品販売額】 1兆1,011億円 (令和3年経済センサス-活動調査) (小売業) 3,452事業所 【年間商品販売額】 5,507億円 (令和3年経済センサス-活動調査)	
経	済	2023年度市町民経済計算 【市内総生産 (GDP)】 2兆6,599.9億円 (構成比) (第 1 次 産 業) 110億円 0.4% (第 2 次 産 業) 8,680億円 32.7% (第 3 次 産 業) 1兆7,471億円 65.8% (輸 入 品 税 等) 309.2億円 1.2% 【就業者1人あたり】 904.8万円 (兵庫県「令和5年度市町民経済計算」)	

2. 姫路市の概要

観 光 入 込 客 数	【2024年度】 (うち、姫路城入城者数)	923.2万人 153.2万人	※2025年7月速報値		
(姫路市観光経済局)					
姉 妹 都 市	シャルルロア市 (ベルギー)				
	フェニックス市 (アメリカ)				
	アデレード市 (オーストラリア)				
	クリチーバ市 (ブラジル)				
	太原市 (中国)				
	昌原市 (韓国)				
	鳥取市 (日本・鳥取県)				
	松本市 (日本・長野県)				
姉 妹 城	シャンティイ城 (フランス・ロワーズ県)				
	コンウィ城 (英国・北ウェールズ)				
	ヴァヴェル城 (ポーランド・クラクフ市)				
	シェーンブルン宮殿 (オーストリア・ウィーン)				
	プラハ城 (チェコ・プラハ)				
観 光 交 流 協 定 締 結 城	ノイシュバンシュタイン城 (ドイツ・バイエルン州)				
位 置 及 び 地 勢	【位置】 東経 134度41分 北緯 34度49分				
	【距離】 東西 約35.7km 南北 約55.5km				
	【海拔】 最高海拔 (夢前町 山之内) 海拔 977m				
	【河川】 最長河川 (市川) 流路延長 77.554km				
気 候	平均気温	最高気温	最低気温	降水量	最大降水量
	16.6℃	37.0℃	▲5.1℃	(年合計) 971mm	(日あたり) 48.5mm
(気象庁 (2025年))					

3. 人口 (1) 世帯数、総人口等の推移及び編入・合併等の変遷

■世帯数、総人口等の推移及び編入・合併等の変遷

区 分			世 帯 数	人 口			人口性比 (男/女)	1世帯当た りの人員	編 入 又 は 合 併 地 域
				総 数	男	女			
	明治	22年 (1889年)	4,815	24,958	...	...	-	5.18	1889年4月1日 姫路市制施行
		42年 (1909年)	9,629	38,247	19,497	18,750	104.0	3.97	1912年 飾磨郡国衙村及び市殿村の一部
○	大正	9年 (1920年)	9,535	45,750	23,306	22,444	103.8	4.80	
○		14年 (1925年)	11,582	55,713	27,415	28,298	96.9	4.81	1925年 城北村
○	昭和	5年 (1930年)	12,552	62,171	31,172	30,999	100.6	4.95	1933年 水上村、神崎郡砥堀村
○		10年 (1935年)	18,210	91,375	44,125	47,250	93.4	5.02	1935年 城南・高岡村 1936年 安室・荒川・手柄村
○		15年 (1940年)	22,188	104,259	49,548	54,711	90.6	4.70	1946年 飾磨市、白浜・広畑・網干町、大津・勝原・余部村
○		25年 (1950年)	46,255	212,100	102,385	109,715	93.3	4.59	1954年 曾左・余部・糸引・八木、揖保郡太市村
○		30年 (1955年)	54,586	252,315	124,092	128,223	96.8	4.62	1957年 四郷・花田・御国野・別所村 1958年 飾東・的形村、神南町 1959年 大塩町
○		40年 (1965年)	90,098	367,807	180,343	187,464	96.2	4.08	1967年 林田町
○		50年 (1975年)	120,619	436,086	213,641	222,445	96.0	3.62	
○		60年 (1985年)	135,618	452,917	219,540	233,377	94.1	3.34	
○	平成	7年 (1995年)	158,818	470,986	227,240	243,746	93.2	2.97	
○		17年 (2005年)	178,987	482,304	232,553	249,751	93.1	2.69	
		18年 (2006年)	199,091	536,067	258,783	277,284	93.3	2.69	2006年3月27日 家島町、夢前町、香寺町、安富町
○		27年 (2015年)	212,801	535,664	258,724	276,940	93.4	2.52	
○	令和	2年 (2020年)	224,106	530,495	256,616	273,879	93.7	2.37	
		4年 (2022年)	227,558	525,044	254,068	270,976	93.8	2.31	
		5年 (2023年)	229,379	522,328	252,547	269,781	93.6	2.28	
		6年 (2024年)	249,624	519,390	251,050	268,340	93.6	2.24	
○		7年 (2025年)	230,210	518,311	250,792	267,519	93.8	2.25	

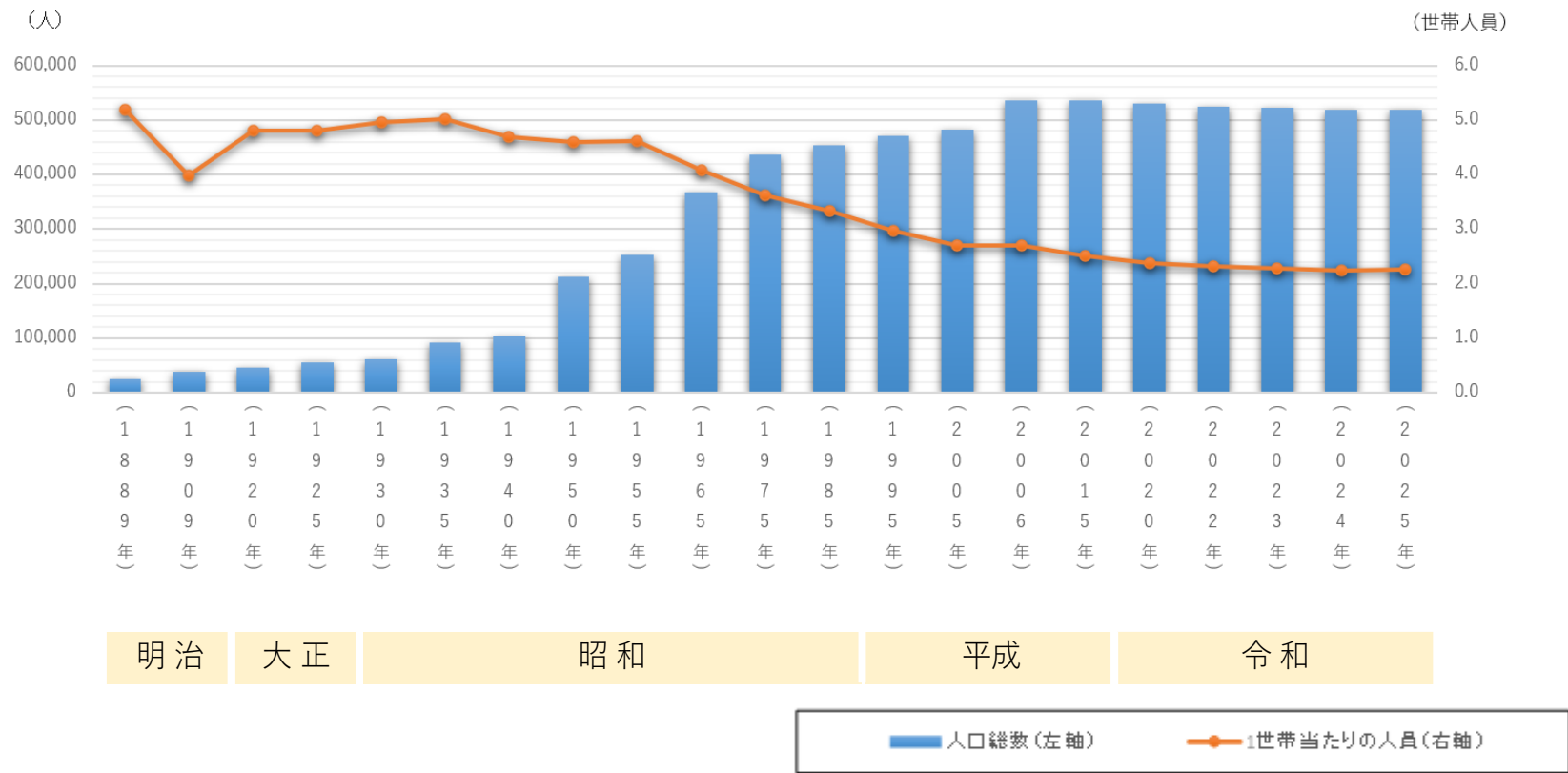
注) ○印は国勢調査結果 (各年10月1日現在)

2006年、2021年、2022年、2023、2024年は姫路市推計人口 (各年10月1日現在)

(資料: 国勢調査、姫路市「姫路市の推計人口」)

3. 人口 (1) 世帯数、総人口等の推移及び編入・合併等の変遷

■人口及び1世帯当たりの人員の推移



(資料：国勢調査、姫路市「姫路市の推計人口」)

3. 人口 (2) 年齢階層別人口推移

- ・2020年の人口は530,495人であり、姫路経済研究所が2023年3月に実施した推計では2050年に90,970人（17.1％）減少の439,525人となる推計結果となった。
- ・年齢3層別にみると、年少人口は29.3％減少の49,044人、生産年齢人口は26.5％減少の228,103人となる一方、老年人口は14.0％増加の162,377人となる推計結果となった。

■年齢3層別人口の推移及び将来人口

	年 次	総 人 口	年少人口 (～14歳)		生産年齢人口 (15～64歳)		老年人口 (65歳～)	
				構成比		構成比		構成比
実績値	1985年	506,101	116,164	23.0%	340,387	67.3%	49,534	9.8%
	1990年	509,129	97,643	19.2%	353,420	69.4%	57,460	11.3%
	1995年	527,854	90,720	17.2%	366,709	69.5%	70,384	13.3%
	2000年	534,969	87,325	16.3%	363,235	67.9%	84,387	15.8%
	2005年	536,232	84,007	15.7%	352,455	65.7%	99,606	18.6%
	2010年	536,270	80,093	15.0%	338,884	63.4%	115,703	21.6%
	2015年	535,664	75,155	14.1%	324,094	60.7%	134,671	25.2%
	2020年	530,495	69,356	13.3%	310,280	59.4%	142,411	27.3%
推計値	2050年	439,525	49,044	11.2%	228,103	51.9%	162,377	36.9%

(資料：実績値は「国勢調査」、推計値は姫路経済研究所(2023年3月推計))

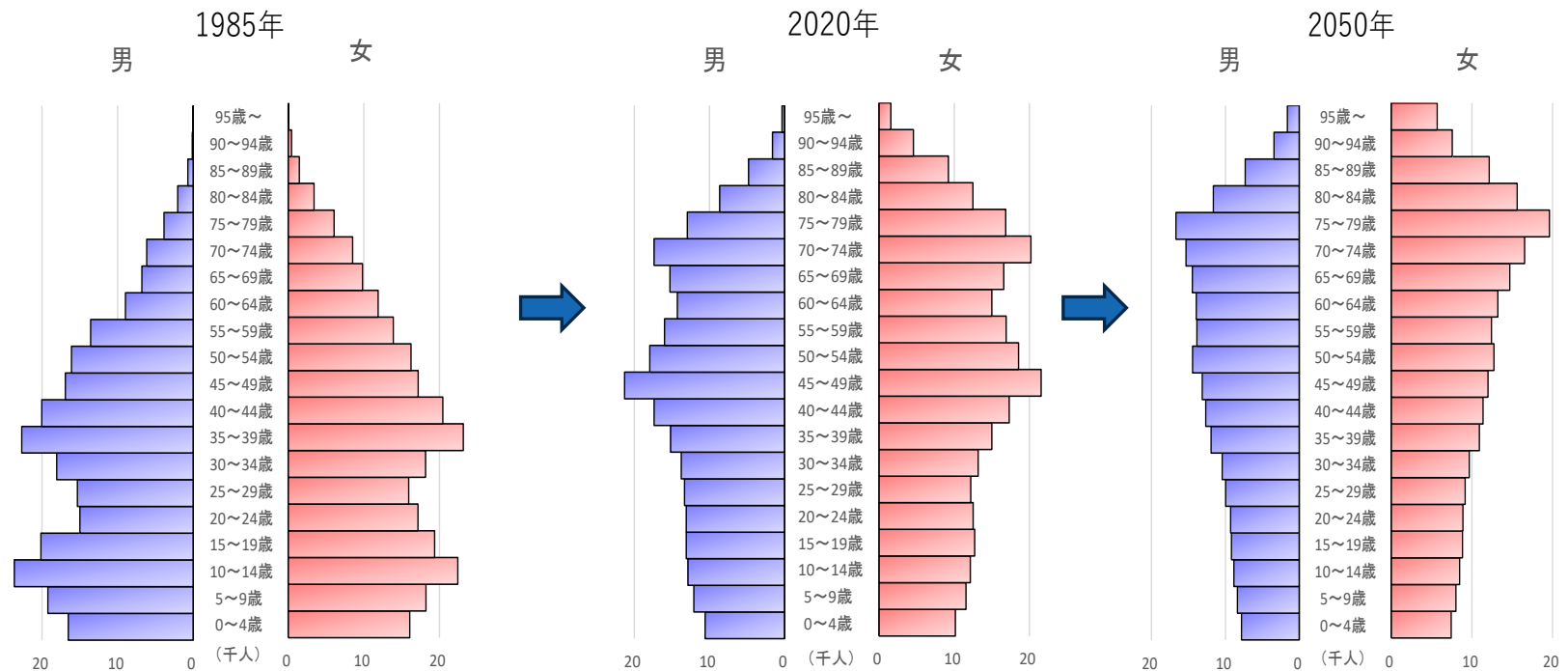
注記：総人口実績値は「年齢不詳」を含む。

2005年以前は編入・合併前の計数を遡及集計している。

構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とならない。

3. 人口 (2) 年齢階層別人口推移

■人口ピラミッドの比較



(資料：実績値は「国勢調査」、推計値は姫路経済研究所(2023年3月推計))

3. 人口 (3) 世帯類型別推移

- ・ 2020年の一般世帯数は223,793世帯であり、当所の推計では2050年には8.9%減少し203,901世帯となる推計結果となった。
- ・ 世帯類型別構成比でみると、2015年まで最も構成比の高かった「夫婦と子世帯」を2020年に「単独世帯」が上回っている。
- ・ 「単独世帯」の数は今後も増加を続け、2050年には構成比が37.4%まで上昇する推計結果となった。

■世帯（一般世帯）数及び世帯類型

	年 次	合 計	単 独		夫婦のみ		夫婦と子		ひとり親と子		その他	
				構成比		構成比		構成比		構成比		構成比
実績値	1995年	174,553	34,569	19.8%	31,644	18.1%	66,973	38.4%	12,832	7.4%	28,535	16.3%
	2000年	186,426	40,446	21.7%	36,713	19.7%	67,642	36.3%	14,881	8.0%	26,744	14.3%
	2005年	195,560	47,490	24.3%	39,343	20.1%	66,122	33.8%	17,403	8.9%	25,202	12.9%
	2010年	205,357	55,752	27.1%	41,313	20.1%	65,325	31.8%	19,231	9.4%	23,472	11.4%
	2015年	212,444	62,344	29.3%	43,245	20.3%	65,048	30.6%	20,842	9.8%	20,965	9.9%
	2020年	223,793	75,447	33.7%	45,476	20.3%	62,985	28.1%	22,137	9.9%	17,748	7.9%
推計値	2050年	203,901	76,179	37.4%	43,260	21.2%	50,539	24.8%	20,347	10.0%	13,575	6.7%

(資料：実績値は「国勢調査」、推計値は姫路経済研究所(2023年3月推計))

注記：2005年以前は編入・合併前の計数を遡及集計している。

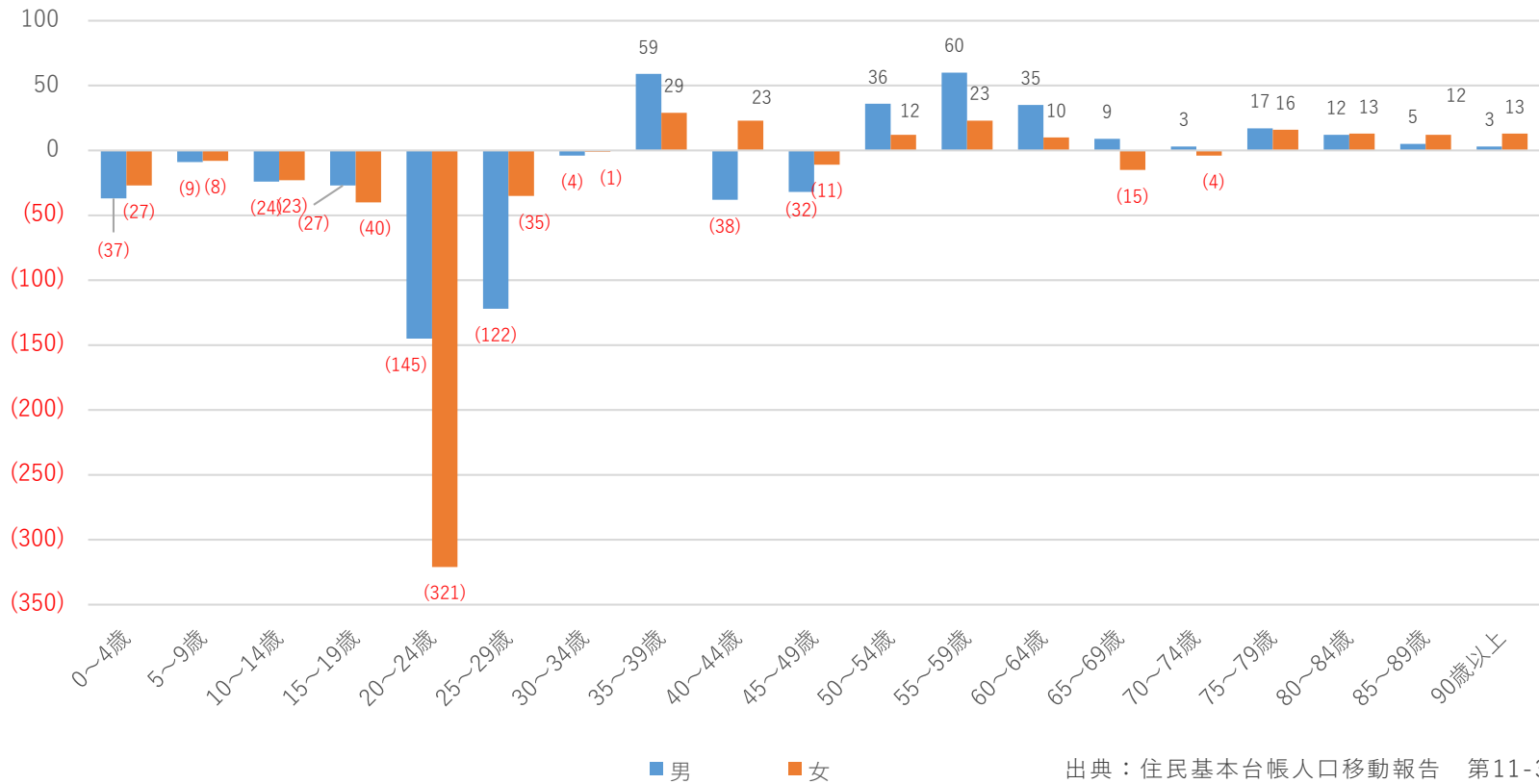
構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とならない。

3. 人口 (4) 転出入の状況について

※日本人の国内移動のみ

- ・住民基本台帳人口移動報告から、姫路市の2025年度について、男女別5歳年齢階級別の流出入の状況を下図で表した。
- ・2025年度は533人の転出超過となっており、内訳は男性199人 女性334人となっている。
- ・5歳年齢階級別で見ると、20歳～24歳と25歳～30歳の2つの階層で、転出超過が著しく、合計で623人の転出超過となっている。

■姫路市の男女別、年齢階級別流出入超過の状況（2025年計）



出典：住民基本台帳人口移動報告 第11-3表

4. 産業 (1) 産業構造

- ・播磨地域の中心都市として、姫路市は臨海部に立地する鉄鋼、化学、電気機械などの重化学工業と活発な商業活動により発展してきた。これを反映し、全国に比べ製造業の占めるウェイトが高くなっている。

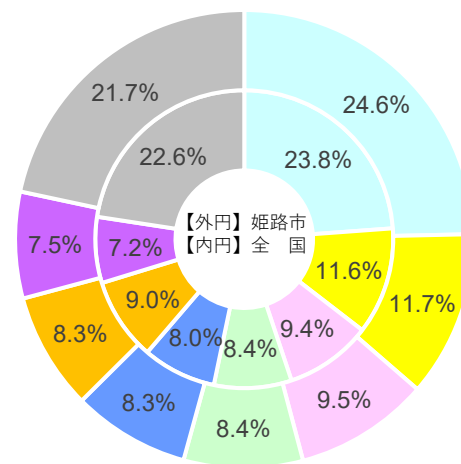
■事業所数

(単位：事業所)

分類	2021年	
	姫路市	全国
卸売業，小売業	5,476	1,228,920
宿泊業，飲食サービス業	2,603	599,058
建設業	2,111	485,135
生活関連サービス業，娯楽業	1,868	434,209
製造業	1,840	412,617
医療，福祉	1,839	462,531
サービス業（他に分類されないもの）	1,669	369,212
その他	4,811	1,164,381
合計	22,217	5,156,063

(資料：令和3年経済センサス-活動調査「民営分」)

■事業所数の構成比較



■ 卸売・小売業 ■ 宿泊・飲食サービス業 ■ 建設業
■ 生活関連サービス業、娯楽業 ■ 製造業 ■ 医療・福祉
■ サービス業（他に分類されないもの） ■ その他

4. 産業 (1) 産業構造

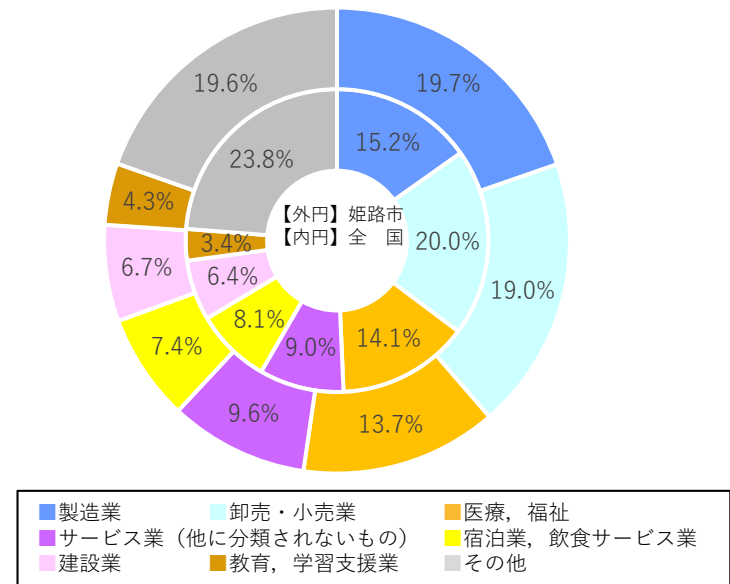
■従業者数

(単位：人)

分類	2021年	
	姫路市	全国
製造業	50,414	8,803,643
卸売業，小売業	48,564	11,611,924
医療，福祉	34,975	8,162,398
サービス業（他に分類されないもの）	24,692	5,234,337
宿泊業，飲食サービス業	19,046	4,678,739
建設業	17,149	3,737,415
教育，学習支援業	10,952	1,950,734
その他	50,284	13,770,725
合計	256,076	57,949,915

(資料：令和3年経済センサス-活動調査「民営分」)

■従業者数の構成比較



4. 産業 (1) 産業構造

■総生産（GDP）

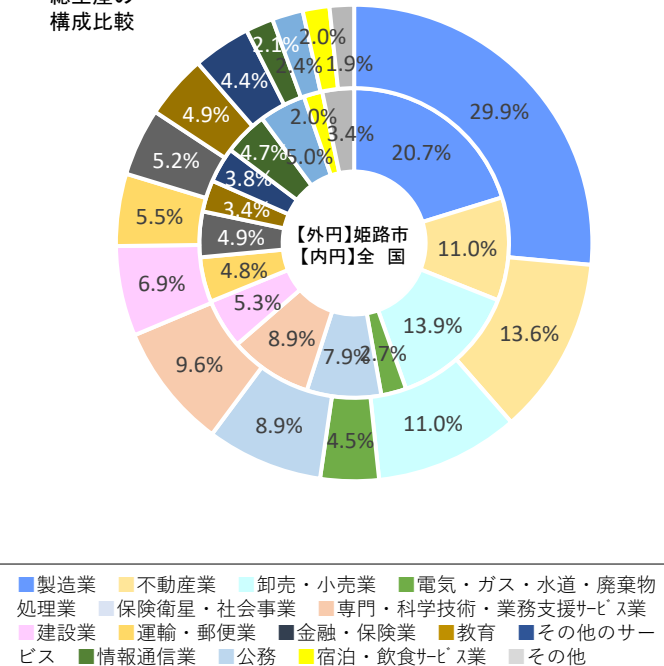
分類	2023年度	
	姫路市 (単位：百万円)	全国 (単位：億円)
製造業	703,258	121,822
不動産業	320,818	64,906
卸売・小売業	259,887	81,422
電気・ガス・水道・廃棄物処理業	105,438	15,796
保健衛生・社会事業	209,540	46,733
専門・科学技術・業務支援サービス業	225,806	52,314
建設業	162,582	31,231
運輸・郵便業	130,128	28,196
金融・保険業	121,779	28,676
教育	115,219	19,843
その他	104,422	22,150
情報通信業	50,002	27,676
公務	55,837	29,331
宿泊・飲食サービス業	48,217	11,749
その他	44,060	19,936
合計	2,656,993	601,779

注記：姫路市は2023年度、全国は2023年暦年

（資料：兵庫県「市町民経済計算」、内閣府「国民経済計算」）

■総生産（GDP）の構成比較

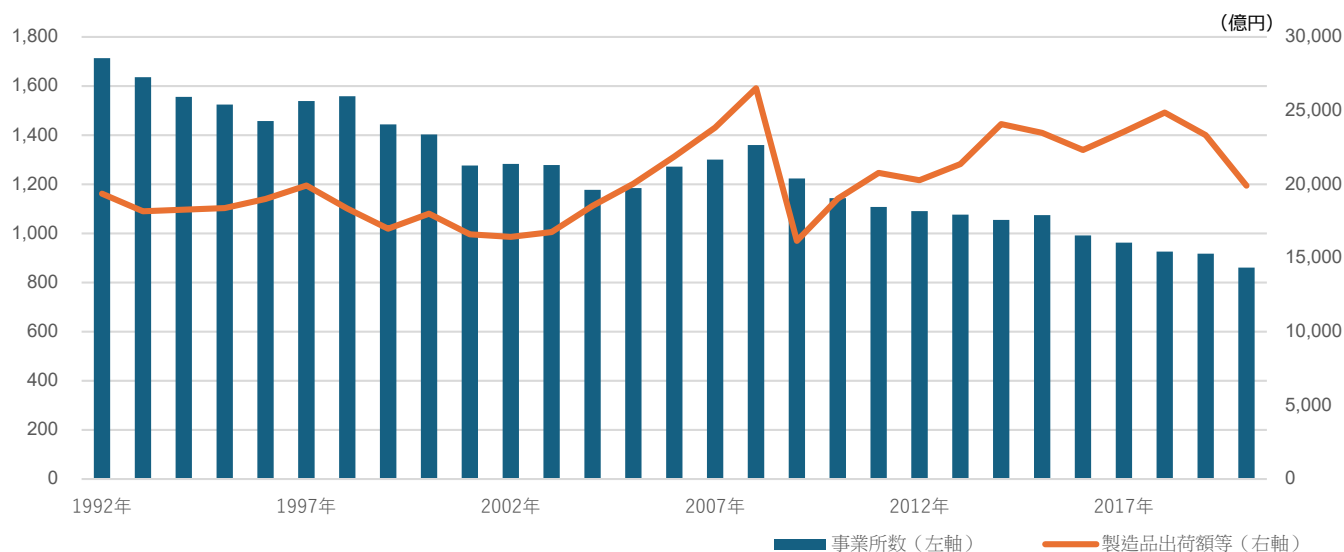
総生産の
構成比較



4. 産業 (2) 製造業

・令和3年経済センサス-活動調査によると、製造業における従業者数4人以上の事業所数は861事業所で、製造品出荷額等は1兆9,911億円となっている。

■事業所数・製造品出荷額等の推移



注記：2015年以降の事業所数は、調査基準日の変更により翌年6月1日時点の数となっている。
製造品出荷額等は1月から12月の1年間の値となっている。

(資料：工業統計調査、経済センサス-活動調査)

4. 産業 (2) 製造業

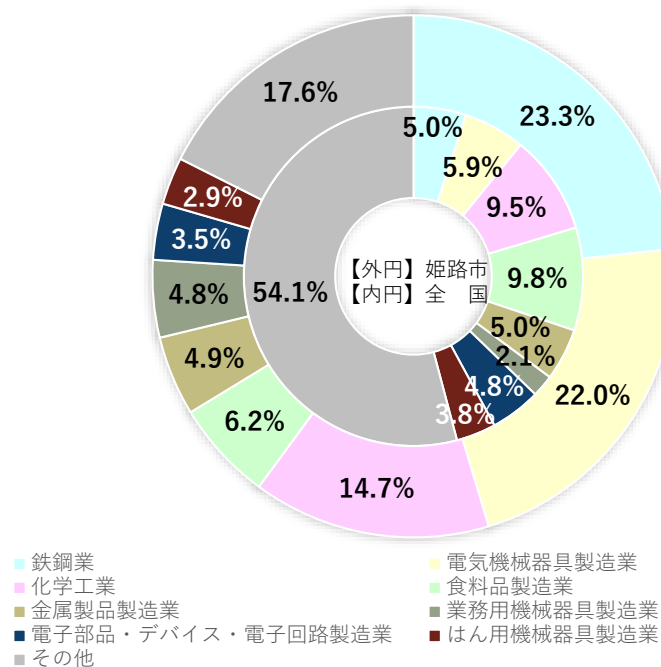
- ・製造品出荷額等は1兆9,911億円で、これを産業分類別に見ると鉄鋼業が4,645億円と最も多く、続いて電気機械器具製造業の4,384億円となっている。
- ・全国と構成比を比較すると、鉄鋼業、電気機械器具製造業、化学工業、業務用機械器具製造業の割合が高くなっている。

■産業中分類別製造品出荷額等（2020年）

分 類	製造品出荷額等（億円）	
	姫路市	全 国
鉄鋼業	4,645	150,723
電気機械器具製造業	4,384	178,191
化学工業	2,935	286,030
食料品製造業	1,234	296,058
金属製品製造業	983	150,204
業務用機械器具製造業	954	63,870
電子部品・デバイス・電子回路製造業	693	145,929
はん用機械器具製造業	585	114,242
その他	3,498	1,634,786
合 計	19,911	3,020,033

（資料：令和3年経済センサス-活動調査）

■製造品出荷額等の構成比較



4. 産業 (2) 製造業

- ・兵庫県下（製造品出荷額等の上位10市町）において、姫路市は事業所数、従業者数、製造品出荷額等の全ての項目で神戸市に次ぐ2番目の規模となっている。

■兵庫県下 製造品出荷額等の上位10市町の比較兵庫(従業員4人以上の事業所)

市町	事業所数	従業者数（人）	製造品出荷額等（億円）
兵庫県 計	7,106	347,873	152,499
神戸市	1,329	67,625	34,090
姫路市	861	46,589	19,911
尼崎市	653	31,891	13,070
明石市	269	23,182	12,273
加古川市	293	15,405	8,757
高砂市	139	13,991	8,505
伊丹市	240	14,679	6,348
三田市	104	10,158	5,351
たつの市	219	10,346	4,054
加東市	153	8,311	4,049

注記：製造品出荷額等の降順

（資料：令和3年経済センサスー活動調査）

4. 産業 (3) 卸売業

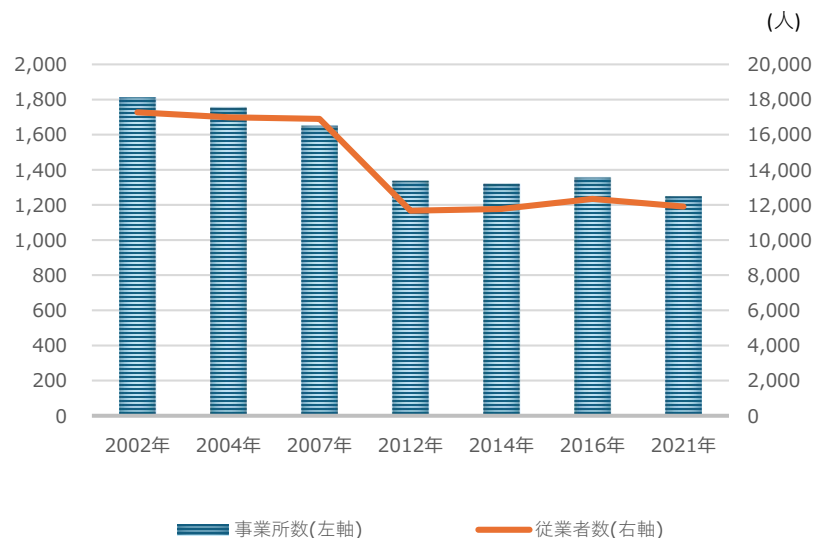
・令和3年経済センサス活動調査によると、卸売業は1,249事業所、従業者数は11,904人、年間商品販売額は1兆1,012億円となっている。

■事業所数・従業者数の推移

年次	事業所数	従業者数 (人)	年間商品販売額 (億円)
2002年	1,812	17,277	11,770
2004年	1,755	16,993	11,236
2007年	1,651	16,896	11,555
2012年	1,337	11,672	10,226
2014年	1,320	11,767	10,342
2016年	1,356	12,341	11,043
2021年	1,249	11,904	11,012

注記：2012年以降の年間商品販売額は、調査対象期間の変更により前年1年間の金額となっている。

(資料：商業統計調査、経済センサス-活動調査)



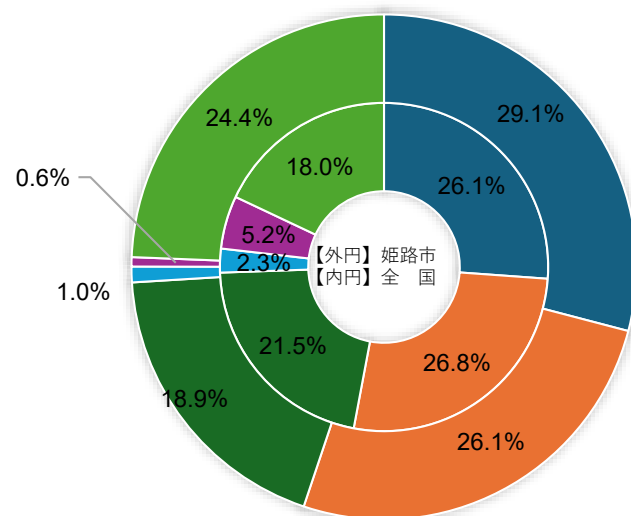
4. 産業 (3) 卸売業

- ・年間商品販売額は1兆1,012億円で、これを産業分類別にみると機械器具卸売業が3,202億円と最も多く、続いて建築材料、鉱物・金属材料等卸売業が2,871億円、飲食料品卸売業が2,078億円となっている。
- ・全国の構成比と比較すると、機械器具卸売業の割合が高くなっている。

■年間商品販売額の構成（2020年）

分 類	年間商品販売額（億円）	
	姫路市	全 国
機械器具卸売業	3,202	1,017,966
建築材料、鉱物・金属材料等卸売業	2,871	1,044,174
飲食料品卸売業	2,078	837,007
繊維・衣服等卸売業	111	91,488
各種商品卸売業	66	203,260
その他の卸売業	2,684	699,989
合 計	11,012	3,893,883

（資料：令和3年経済センサスー活動調査）



■ 機械器具卸売業
■ 飲食料品卸売業
■ 各種商品卸売業

■ 建築材料、鉱物・金属材料等卸売業
■ 繊維・衣服等卸売業
■ その他の卸売業

4. 産業 (3) 卸売業

・兵庫県下（年間商品販売額の上位10市町）において、姫路市は事業所数、従業員数、年間商品販売額の項目では神戸市に次ぐ2番目の規模となっていますが、従業者1人当たりの年間消費販売額では6番目となっている。

■兵庫県下 年間商品販売額の上位10市町の比較

市 町	事業所数	従業者数 (人)	年間商品販売額 (億円)	従業者1人当たりの 年間商品販売額 (百万円)
兵庫県 計	8,955	90,726	88,623	97.7
神戸市	3,190	40,357	43,752	108.4
姫路市	1,249	11,904	11,012	92.5
尼崎市	639	6,948	7,299	105.0
西宮市	495	5,587	6,675	119.5
伊丹市	204	2,520	3,440	136.5
明石市	334	2,741	3,330	121.5
加古川市	343	3,100	2,320	74.9
三木市	225	2,007	1,134	56.5
豊岡市	211	1,769	745	42.1
たつの市	134	1,052	632	60.1

注記：年間商品販売額の降順

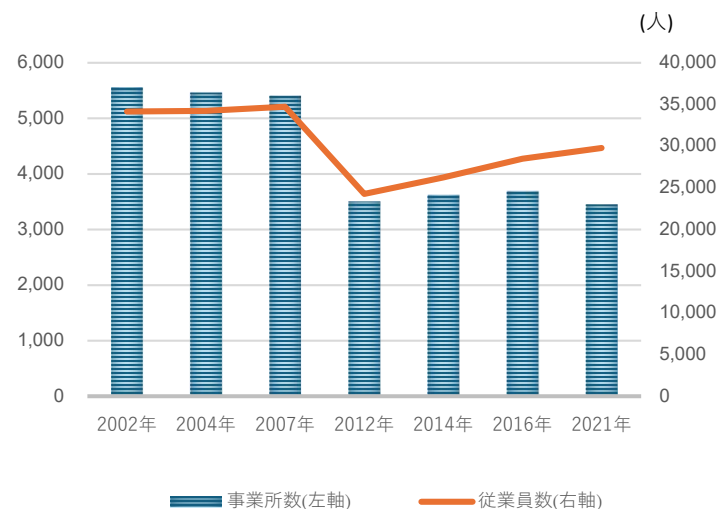
(資料：令和3年経済センサスー活動調査)

4. 産業 (4) 小売業

・令和3年経済センサス-活動調査によると、小売業は3,452事業所、従業者数は29,784人、年間商品販売額は5,507億円となっている。

■事業所数・従業者数の推移

年 次	事業所数	従業者数 (人)	年間商品販売額 (億円)
2002年	5,558	34,163	5,807
2004年	5,464	34,243	5,617
2007年	5,410	34,731	5,952
2012年	3,504	24,277	4,491
2014年	3,622	26,242	5,118
2016年	3,688	28,489	5,780
2021年	3,452	29,784	5,507



注記：2012年以降の年間商品販売額は、調査対象期間の変更により前年1年間の金額となっている。

(資料：商業統計調査、経済センサス-活動調査)

4. 産業 (4) 小売業

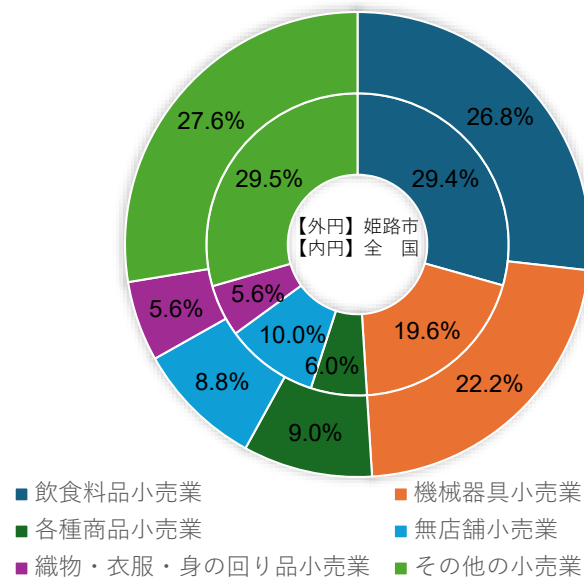
- ・年間商品販売額は5,507億円で、これを産業分類別にみると飲食料品小売業が1,475億円と最も多く、続いて機械器具小売業が1,224億円、各種商品小売業が496億円となっている。
- ・全国の構成比と比較すると、機械器具小売業の割合が高くなっている。

■年間商品販売額の構成（2020年）

分 類	年間商品販売額（億円）	
	姫路市	全 国
飲食料品小売業	1,475	391,365
機械器具小売業	1,224	261,667
各種商品小売業	496	79,968
無店舗小売業	486	132,884
織物・衣服・身の回り品小売業	307	74,219
その他の小売業	1,519	392,471
合 計	5,507	1,332,575

（資料：令和3年経済センサスー活動調査）

■年間商品販売額の構成比較



4. 産業 (4) 小売業

・兵庫県下（年間商品販売額の上位10市町）において、姫路市は事業所数、従業者数、年間商品販売額、売場面積の項目では神戸市に次ぐ2番目の規模となっていますが、売場1㎡当たりの年間商品販売額は8番目となっている。

■兵庫県下 年間商品販売額の上位10市町の比較

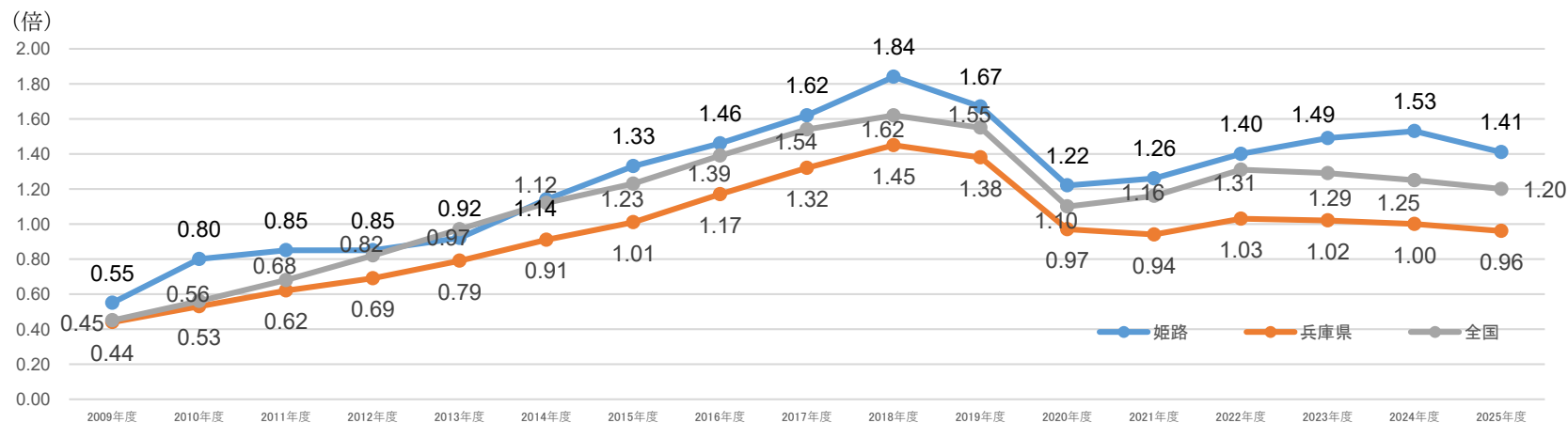
市 町	事業所数	従業者数 (人)	年間商品販売額 (億円)	売場面積 (㎡)	売場1㎡当たりの年間 商品販売額 (万円)
兵庫県 計	30,754	270,959	51,972	5,385,360	96.5
神戸市	8,750	82,248	17,882	1,564,600	114.3
姫路市	3,452	29,784	5,507	626,822	87.9
西宮市	2,077	22,886	4,221	368,122	114.7
尼崎市	2,155	19,134	3,423	334,923	102.2
加古川市	1,232	12,404	2,421	301,775	80.2
明石市	1,334	12,943	2,134	238,024	89.7
伊丹市	847	9,039	1,778	184,774	96.2
宝塚市	816	8,092	1,451	139,323	104.2
川西市	629	6,737	1,313	122,719	107.0
三田市	463	5,652	964	132,882	72.5

注記：年間商品販売額の降順

(資料：令和3年経済センサスー活動調査)

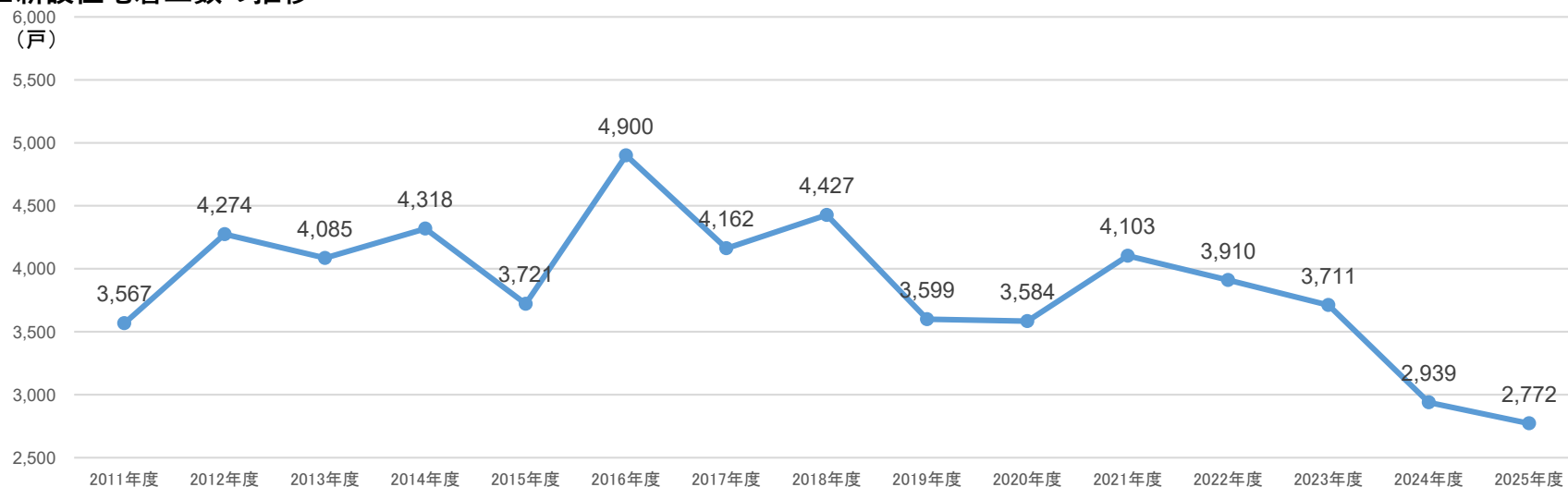
4. 産業 (5) その他関連指標

■有効求人倍率



(資料：姫路公共職業安定所)

■新設住宅着工数の推移



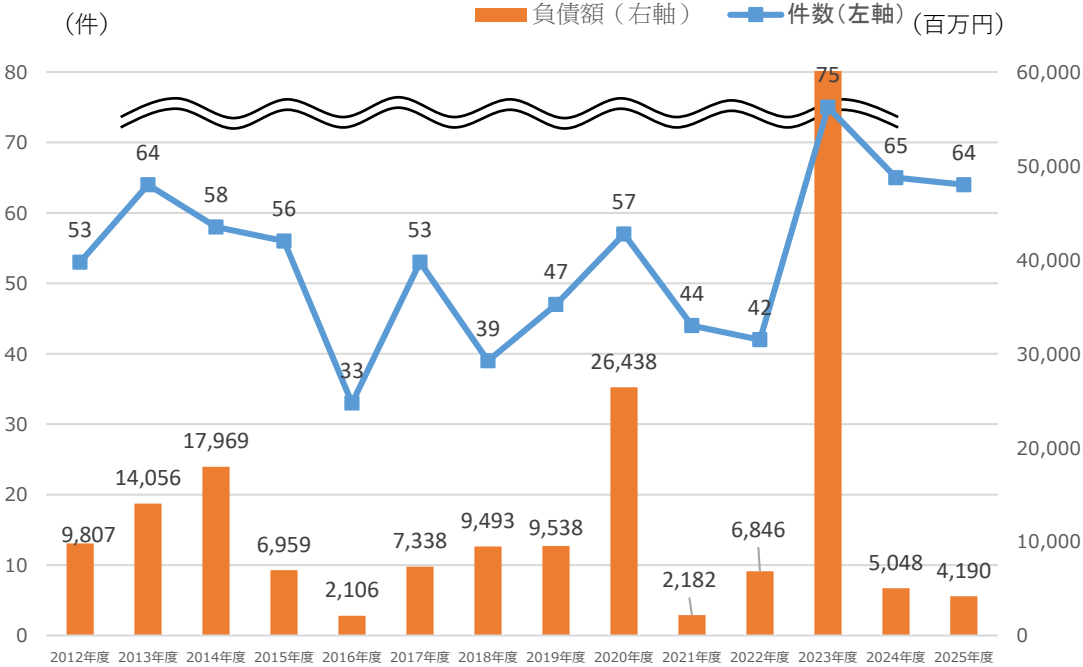
(資料：兵庫県「新設住宅着工統計市区町別集計表」)



4. 産業 (5) その他関連指標

■倒産状況

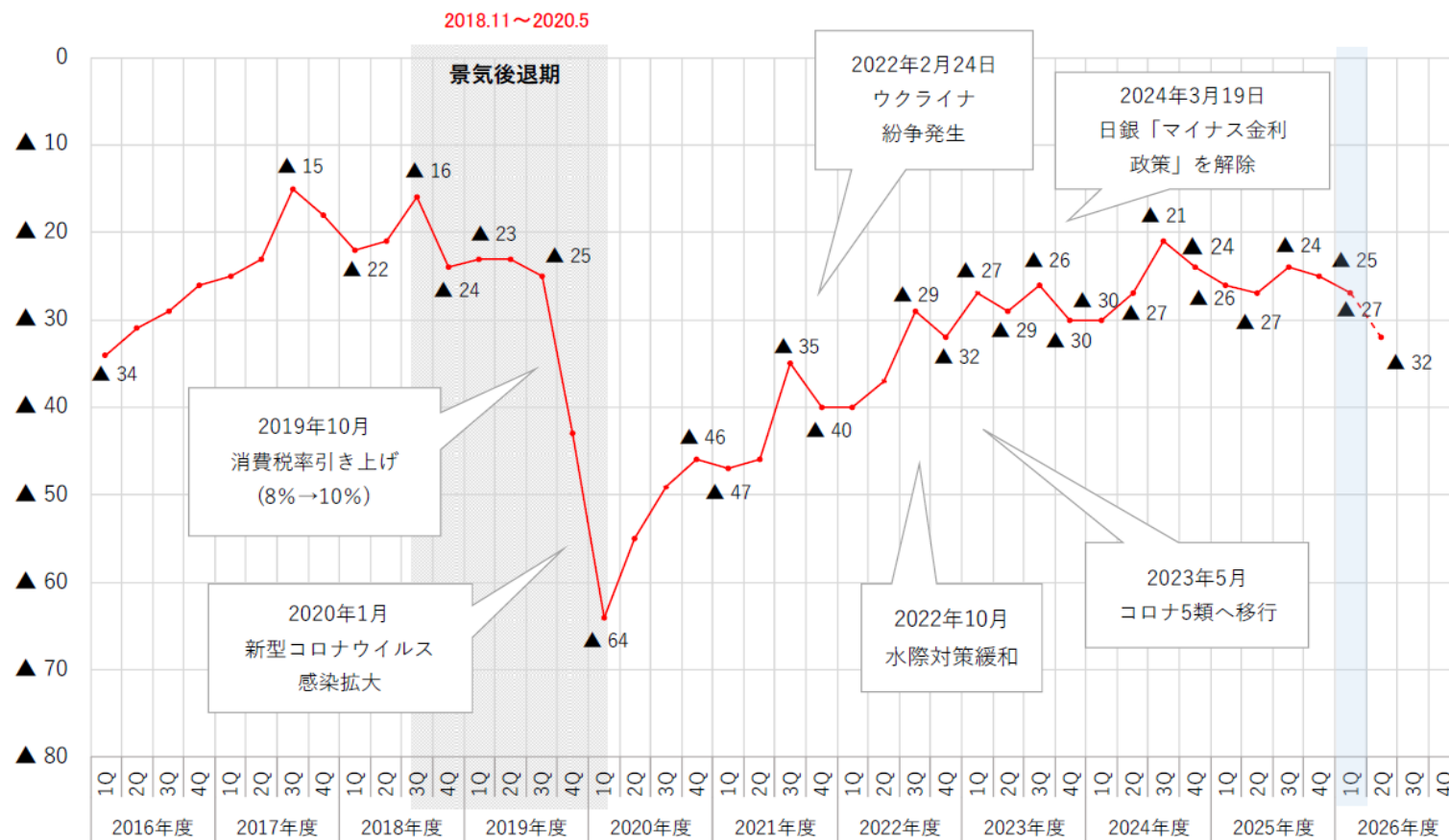
年 度	件数		負債額（百万円）	
		前年差 （件数）		前年比 増減（％）
2012年度	53	▲ 2	9,807	▲ 45.6
2013年度	64	11	14,056	43.3
2014年度	58	▲ 6	17,969	27.8
2015年度	56	▲ 2	6,959	▲ 61.3
2016年度	33	▲ 23	2,106	▲ 69.7
2017年度	53	20	7,338	248.4
2018年度	39	▲ 14	9,493	29.4
2019年度	47	8	9,538	0.5
2020年度	57	10	26,438	177.2
2021年度	44	▲ 13	2,182	▲ 91.7
2022年度	42	▲ 2	6,846	213.7
2023年度	75	33	588,892	8,502.0
2024年度	65	▲ 10	5,048	▲ 99.1
2025年度	64	▲ 1	4,190	▲ 17.0



(資料：東京商工リサーチ 姫路支店)

5. 姫路市内景気動向

■景気動向調査「姫路の業況判断DI」の長期推移

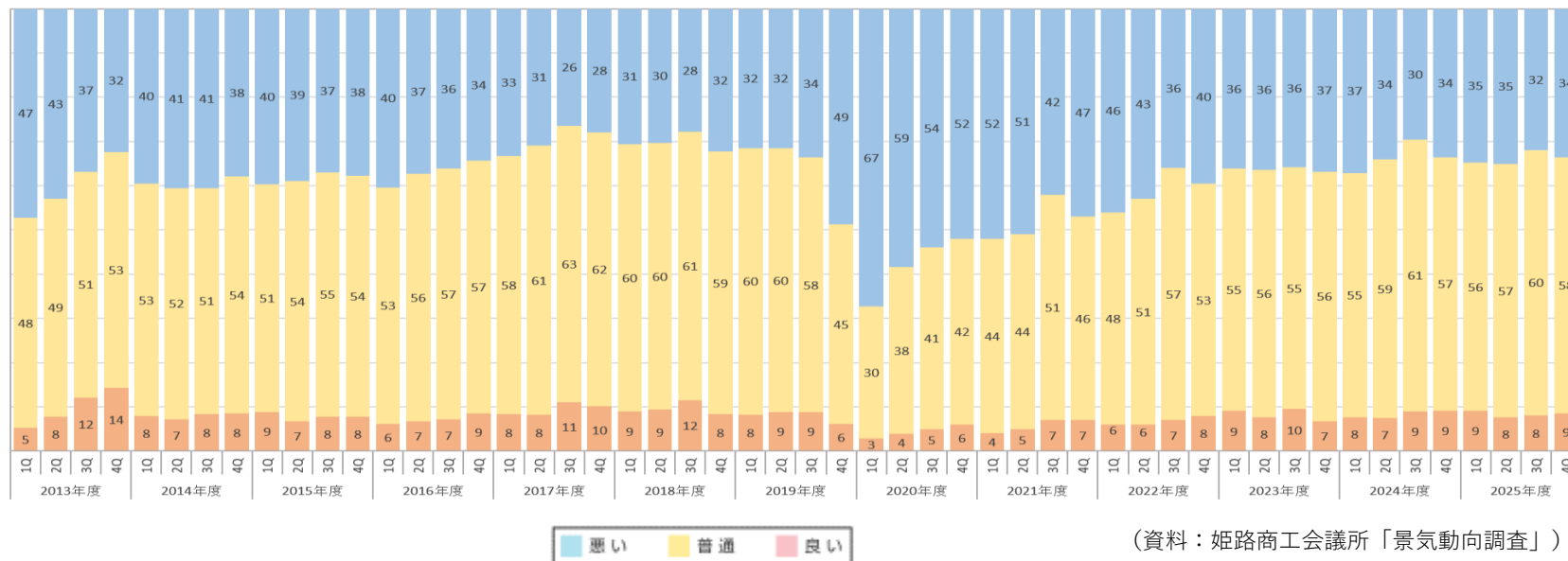


(資料：姫路商工会議所「景気動向調査」)

※DI：Diffusion Index（ディフュージョン インデックス）の略称。
 企業の景況感や従業員、設備の過不足などの判断を指標化したもの。
 業況判断については、「良い」割合から「悪い」割合を引いた値をもとに作成。

5. 姫路市内景気動向

■「姫路の業況判断D I」構成比の推移



■項目別D I 値の推移

	2023年度	2024年度	2024年度	2024年度	2024年度	2025年度	2025年度	2025年度	2025年度
	/4Q	/1Q	/2Q	/3Q	/4Q	/1Q	/2Q	/3Q	/4Q
業況判断D I	▲ 30	▲ 30	▲ 27	▲ 21	▲ 24	▲ 26	▲ 27	▲ 24	▲ 25
従業員過不足D I	▲ 31	▲ 32	▲ 31	▲ 32	▲ 33	▲ 26	▲ 30	▲ 33	▲ 29
設備過不足D I	▲ 7	▲ 7	▲ 9	▲ 6	▲ 10	▲ 6	▲ 7	▲ 8	▲ 9
在庫過不足D I	4	4	2	1	2	3	1	0	▲ 2
資金繰りD I	▲ 18	▲ 16	▲ 19	▲ 16	▲ 15	▲ 17	▲ 16	▲ 15	▲ 17

(資料：姫路商工会議所「景気動向調査」)

※DI：Diffusion Index（ディフュージョン インデックス）の略称。

企業の景況感や従業員、設備の過不足などの判断を指標化したもの。
業況判断については、「良い」割合から「悪い」割合を引いた値をもとに作成。

(注) 構成比は小数点以下を四捨五入しているため、
合計しても必ずしも100とはならない。

詳しい調査結果は姫路商工会議所（姫路経済研究所）ホームページをご覧ください。



姫路商工会議所 姫路経済研究所

〒670-8505 姫路市下寺町43番地

TEL：079-223-6555（直通）

FAX：079-288-0047

URL：<https://www.himeji-cci.or.jp/>



2026年8月作成

※本冊子は、小規模事業者等が経営計画や事業計画等を策定する際の基礎資料として作成しました。